

大分県立看護科学大学 第12回看護国際フォーラム

「On Lok Lifewaysにおける包括的ケア・プログラム」(Janice Fujii先生の講演から)

松本 初美 Hatsumi Matsumoto

大分県立看護科学大学 専門看護学講座 成人・老年看護学 Oita University of Nursing and Health Sciences

2010年12月30日投稿, 2011年3月16日受理

キーワード

包括的ケアプログラム、高齢者、On Lok Lifeways

Key words

care program, elderly people, On Lok Lifeways

1. はじめに

我が国の総人口に占める65歳以上人口の割合(高齢化率)は22.7%(前年22.1%:平成22年版高齢社会白書,内閣府2010)に達し、高齢者の要介護者等の数は急速に増加している。要介護になった原因としては、「脳血管疾患」に次いで「認知症」があげられている。平成20年7月には厚生労働省より「認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」の提言が取りまとめられており、認知症への対応はわが国にとって大きな課題である。

米国より招聘したJanice Fujii先生は米国における高齢者に対する介護などの実践プログラムを紹介された。Janice Fujii先生はOn Lok Lifewaysの管理者であり実践家であり、ご自分の経験をもとに特にサンフランシスコ市におけるPACE(高齢者のための包括的ケアプログラム)の実際について紹介された。この概要を報告する。

2. PACEとは

PACE(Program for All Inclusive Care for the Elderly)は、高齢者のために自宅に於いて包括的なサービスが受けられるプログラムであり、薬物治療、長期介護が必要な場合の施設入所・急性期病院への診察への段取り、移動のための車の送迎、食事の宅配サービス、歯科・聴覚・視覚チェック、精神的健康を保つためのサービスなどが含まれている。宣教師・訪問宗教者の依頼も可能である。Medicare、Medicaidおよび民間の保険との連携もとられている。

2010年現在、PACEセンターは全米31州の74

か所で運営されており、身体的に虚弱な人を対象にそれぞれのコミュニティを拠点としてプログラムが展開されている。PACEとしての居住施設を持たないため、その地域におけるケア施設のサービス資源を利用しながら午前7時～午後7時まで送迎・移動も含めてケアを展開している。PACEは州や連邦政府の補助を受けて運営されている。

PACEを受けられる人は、サービス提供地域に居住している55歳以上の要介護認定を受けた人で、自宅での安全が確保できる人(午後7時～朝7時まで家族が介護でき、介助があればトイレなどにいくことができる人)、地域の介護施設に住む高齢者などが対象となる。

医師、栄養士、作業療法士、理学療法士、在宅ケア看護師、ナースプラクティショナー、レクリエーション担当スタッフなどのメンバーで構成された学際チームが、まず対象の精神保健の観点も含めたアセスメントを行い、対象のニーズに基づいたケアを展開できるように組み立てられている。

ケアの提供は、成人デイケアやホームケアなどで多職種によるチームによっておこなわれている。ケアは、プライマリ・ケアのサービスに加えて社会的、文化的な側面を含んで実施される。プライマリ・ケアを受けられるのは1日4時間であり、家族が日中仕事に従事している間に受けられるように、交通・送迎のアレンジを含めてPACEセンターが調整している。

効果的・効率的なケアを提供するために、毎朝多職種により個々の利用者毎のケア内容についてのミーティングが行われている。スタッフ全員が利用者についてよく観察し理解しているため、

ミーティングでは少しの変化も逃さず報告し情報を共有している。特に初期の認知症の変化に対するきめ細かな観察がチーム全体で行われており、治療プランに役立っている。病院や介護施設から在宅への移行や、介護付き住宅への移行への支援を行う。高齢者の介護には、時間・労力・忍耐が必要であるため、介護に疲れた家族のレスパイトケアも行っている。プログラムの平均利用期間は終末期を含む5年間で、ケアの内容はすべて電子カルテに記録保管されている。

プライマリ・ケアができるかかりつけ医、ナースプラクティショナー、専門看護師（CNS）が常駐しており、病院のような役割を果たしており「壁に囲まれていない病院」といえる。静脈注射や呼吸器疾患の治療、創傷ケアなどの日常的ケアを行うことで、入院しなくてもすむように心がけている。慢性疾患（例えばうっ血性心不全、糖尿病、慢性肺疾患）の処置、終末期の訪問医療などは、医師やナースが電話一本で対応できるような24時間待機システムを設けており、分野横断的な医療チームとリンクしている。

3. On Lok Lifewaysの歴史

On Lok Lifewaysは、PACEを提供している組織の一つである。1960年代にスウェーデン人のソーシャルワーカーと中国系のアメリカ人の歯科医が発起人となり、サンフランシスコのチャイナタウン／ノースビーチ地域の低所得でヘルスケアの恩恵に被られない阻害されがちな高齢者たちが、尊厳を保ちつつ人生を送れるようにと非営利団体であるOn Lokによって設立され、全米初のPACEとして立ち上げられた。

1970年代、カリフォルニア州の4つのPACEセンターにおいてケアを展開した。1999年、On Lok Lifewaysは、カリフォルニア州で最初にKnox-Keene高齢者ケア施設としての公認の許認可を受理している。2002年サンフランシスコ郊外のフリーマントでは、ヘルスケアサービスが非常に高額であることは問題であると認識していたカトリック教会の修道女たちがPACEに踏み切ることで、多くの高齢者が自宅にいながらケアを受けられるようになった。2009年にはサンタクララ郡サンノゼまでPACEを拡大した。設立以来40年以上、着実な成長を続けており、現在およ

そ1000人以上の高齢者にサービスを提供している。

4. On LokのPACE活動の実際

On LokのPACEを利用している対象者の平均年齢は女性で84歳、利用者の医学的所見としては13種類以上の疾患があり、68%が認知症という診断を受けている。利用者の内訳は、63%がアジア・太平洋の島民、19%が白人、11%はヒスパニック、7%はアフリカ系アメリカ人である。英語を話せない高齢者のために、2ヶ国語以上を話すことができるスタッフ、看護師、老年看護ナースプラクティショナー、専門看護師を配属している。

On Lok Lifewaysには二つの部門がある。1つは、サービスの提供者としての部門で、Janice Fujii先生も所属しておられる部門である。10の学際チームが9つのPACEセンターをカバーして、在宅療養サービス、輸送、食事のサービスなどをおこなっている。プライマリ・ケアの提供者（医師とナースプラクティショナー）を有して、高齢者と専門ケアの提供者の完全なネットワークによるケアが展開されている。他の1つの部門は、マーケティング・質保証・苦情処理などを担当している。

On LokのPACE サービスにより、コミュニティでは高齢になっても施設に入所することなく91%の人が在宅であり、一般的Medicareの人と比べて入院利用率が低い。急性期で入院した後のフォローアップが充実しており、家族も一つのユニットとして考えケアを提供している。退院した利用者に対しては、専門的知識を備えたスタッフが再入院しないよう、少しでも長く自宅で過ごせるように家族も含めてサポートしている。多くの看護師が終末期ケアを提供しており、最終的に家族はスタッフとともに自宅で最期まで看ることができたという満足感を得られる。2008年には、利用者の95%がサービスに非常に満足しているという高い満足度が得られている。また、利用者の95%は親友にプログラムを紹介したいと回答している。

On LokのPACEは、Medi-Cal（カリフォルニア州の低所得者用の保険）から4%、Medicareから2%の支払いを受け、財源の大半は、連邦政府・州からの資金である。しかし不況により2%予算

を削減されており、同じスタッフでより少ない資源でレベルの高いケアを提供しなければならない。

On Lok PACEの支出は、67%が長期的介護費用、21%が治療費、8%の管理費は500名以上のスタッフの person 費となるため高い数字となっている。521人のスタッフで1058人のケアを行い、慢性疾患・認知症ケアには24時間体制でケアに当たるために person 費も高くなっている。

On Lok PACEは、州や連邦政府から資金を受けて規則に則って運営されているので、州や連邦政府に報告義務がある。4つの規制当局の監査を1年に2回受けている。保険維持機構であるKnox-Keeneの下で、On Lok PACEのケアの質の監査を受けている。

On Lok PACEは成功し、長い期間入院することなく介護者の負担が少ない状態で、自宅で過ごすことができるようになってきている。しかしプログラムの運営には非常に高いコストがかかり、スタッフの燃えつきも問題となっている。老年学の分野はダイナミック・エキサイティングな分野ではなく、老年学の専門家になりたいという希望者も多くはないが、我々は素晴らしいケアを提供したいと願っている。そのために経験や能力のあるスタッフの参画が必要である。カリフォルニア大学サンフランシスコ校ではそのような人材育成に取り組んでおり、On Lokはそのキャリアのスタートとして、よい提供場所となっている。On Lokはよいモデルを提供しているが、連邦政府はコスト面も考慮した場合に、よいモデルかどうか評価しているところである。

5. おわりに

今回の講演で米国のOn Lok LifewaysにおけるPACEについて知見を得た。

On Lok PACEは、40年以上もの間コミュニティを拠点に活動することにより、高齢者の思いに沿い入院せずにできるだけ長い期間自宅で過ごすことを可能にしている。わが国の高齢者の思いは要介護状態になっても、可能な限り住みなれた地域や自宅で生活し続け、人生の最期のときまで自分らしく生きることを望んでおり(内閣府2007)、米国の高齢者の思いと一致している。そのことよりPACEの成功要因は、わが国の高齢者が住み慣れた地域に入院せず過ごすことができる環境整備

やシステム構築の発展に影響を与えると思う。

PACEでは医療・介護の連携が包括的マネジメントの下で進んでおり、チームとしての継続的な活動が行われていることを理解できた。その中で対象と毎日接しているスタッフ・専門的なプロの各職域での観察が慢性病を抱える高齢者には欠かせないこと、またその情報の共有が実践の場面では重要であることなどの示唆を得た。

またPACEではナースプラクティショナーが活動している。プライマリ・ケアができる資格者として、学際チームのメンバーとして高齢者と専門ケアの提供者の完全なネットワークの中でチームの一員としての機能が確立されている。我が国では全国に先駆けて大分県立看護科学大学で平成20年度から教育が始まり、今年度卒業生を輩出する予定となっている。高齢化や医師不足対策の米国の波が波及している我が国であることより、Janice Fujii先生の講演は、卒業生に実践者としての期待を与えたものと考えられる。

引用文献

内閣府(2007). 高齢者の健康に関する意識調査. http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h08_sougou/a_15.htm

内閣府(2010). 平成22年版 高齢社会白書. http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2010/zenbun/22pdf_index.html



著者連絡先

〒870-1201

大分市大字廻栖野2944-9

大分県立看護科学大学 成人・老年看護学研究室

松本 初美

matsumoto@oita-nhs.ac.jp